

II 川平保護水面の調査結果

今年度はヒメジャコについては生殖巣部湿重量、成長量そして放流効果の各調査をおこなった。加えて石垣島周辺のシャコガイと川平湾内外のサゴの生息状況についても調査した。種苗生産はヒメジャコとシャゴウに関する試験を行なった。カタメンキリンサイは生息状況調査と移植実験を実施した。また粒度組成と底生生物及び水質等環境調査は例年と同様におこなった。

1. ヒメジャコの生殖巣部湿重量調査

方 法

前年度と同様に川平湾マジャ島の礁原部で採集した個体の軟体部湿重量 (W) と生殖巣部湿重量 (GW) との比率 ($R = \frac{GW}{W} \times 10^2$) を調べた。調査は保護水面からの採集個体数を少なくするために、過去の調査から明らかに生殖巣部湿重量の減少期と判明している時期の試料採取は行わず、減少期の出現月までとした。今年度の調査日は月の下旬を原則とし、採集個体は五個体ずつとした。

結 果

結果は生殖巣部湿重量比の各月の平均と採集時の水温及び採集個体の殻長の平均を共に図1に示した。

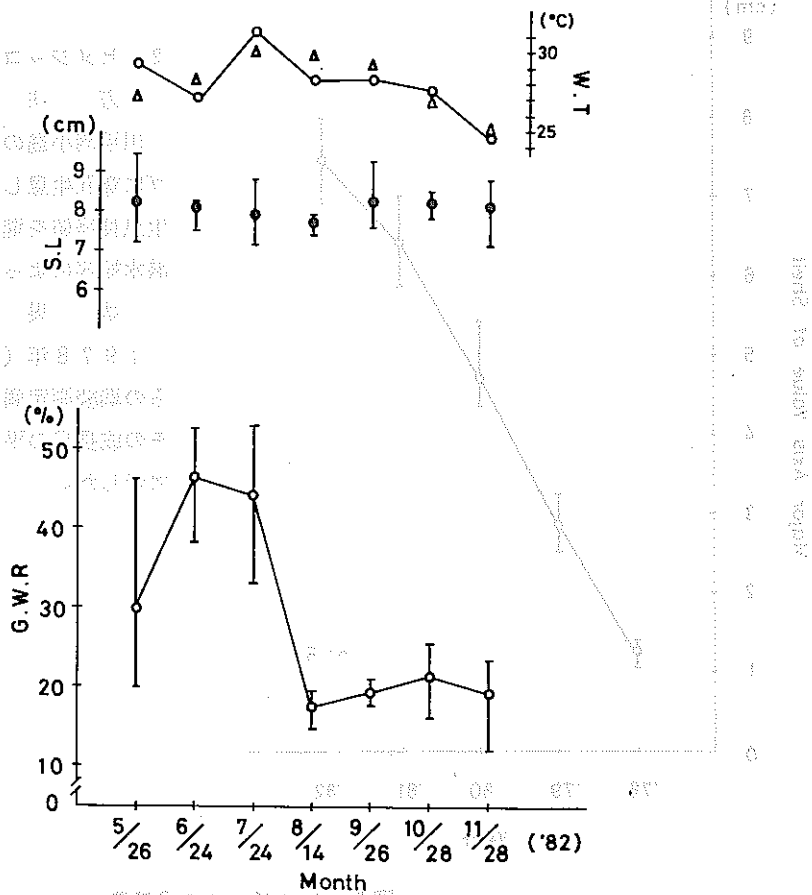


図1 ヒメジャコの生殖巣部湿重量比